

通信制教育目標	重点目標 (中長期的目標)	総合評価				
「生きる力」の育成 ～自学自習を通して～ ○社会に対応できる学力 ・コミュニケーション能力 ○自己の可能性の再発見	①単位取得に向けた履修継続への支援 ②自己実現を図るための進路指導の充実	ひとりひとりの学力に応じた学習指導 (個人指導・特別指導・補充スクーリング) により、活動の充実を図っている。確実な学力を付けて進学に向かう生徒や、就職内定を得られた生徒数は昨年より増加している。				
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	改善策・向上策
	①職員研修の実施 ・添削指導の工夫・改善により単位取得率の向上を図る ・全通研・中通研等を通じ先進的な取り組みを学ぶ	・前期科目・後期科目・通年科目の混在する教育課程でスタートし、少しずつ修正を加えながら進めた。前期科目に偏って通年科目への取り組みが甘い生徒もいたが、後期に回復するよう指導に力をいれた。 ・全通研・中通研に3名ずつ参加。報告研修会を実施した。来年度長野大会の準備を始めている。		○		・前期科目・通年科目の活動状況を総括しながら、教育課程を見直し、修正を加えていく。2期制の学習リズムに適応できるように指導の工夫をしながら、単位取得率を高めていく。 ・目前に迫った全通研長野大会の準備をしながら、長野西高との連携を深めていく。
②個人指導の積極的な実施 ・学習指導のための個人面接・特別指導の充実 ・保護者懇談会の充実	・個人面接・特別指導の希望者は多くなっている。停滞生の活性化という観点では、今一歩。 ・保護者懇談会参加者は昨年度より20名増加の109名。保護者との連携も更に強めていかなければならない。			○	・各教科の個人面接や特別指導が、本当に必要な生徒に適切に実施でき、連携が必要な保護者との懇談が持てるよう、家庭との連絡強化を図っていく。	

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	A	B	C	改善策・向上策
教	・教育課程の改善	・前期・後期・通年科目等科目設定は適切であったか。	・後期に46名の転編入生を受け入れた。科目の分割履修で柔軟な受講指導ができるよう教育課程表を改善した。		○		・初年度の総括から科目設定や学習指導のあり方を検討し、受講指導の改善工夫に繋げる。
	・学習指導の充実	・生徒によるレポート、添削、面接等の評価を実施したか。	・各教科で生徒の声を集める工夫をし、教材の精選に努めている。		○		・レポートの添削や面接指導に係わる要望事項を反省職員会で取り上げて改善する方向で取り組んでいる。
	・シラバスの活用	・指導に生きるるとともに生徒に役立つか	・シラバスを見ながら学習を進めるよう指導することができた。		○		・HP掲示の他、シラバスをレポートとともに配布するようにしていく。
育	・安心して学習できる環境づくり	・集会やHRでアピールし、生活や授業のマナーを向上できたか。	・美化活動の強化と相まって敷地内における喫煙は大きく減少しているが、空き教室使用等の問題が生じた。		○		・生徒への呼びかけや美化活動を続けながら、ゴミ・吸い殻対策や、巡回指導を更に強化したい。
	・保護者との連携の強化	・半数以上の保護者と懇談できたか。	・一定の効果は上げつつあるが、必要な保護者との懇談は難しい。	○			・懇談の必要な生徒への対応を工夫していく必要がある。
	・交通安全の徹底 ・禁煙の徹底	・会誌や集会等を利用して注意を喚起できたか。	・交通安全や禁煙、犯罪に関わることについては、集会、通信、HR等で強く指導してきた。		○		・交通安全教育等、警察と協力して実施していく必要がある。なお一層の禁煙指導を進めていく。
活	・進路指導体制の確立	・個人面接、特別指導等を生かし、学力の向上が図られたか。 ・進路希望調査や面接により、個々の進路希望を把握できたか。	・個人面談、保護者懇談会を通して早期から生活習慣や進路希望を把握し、学習指導に繋げることができた。 ・個々の生徒についての進路希望調査結果を職員全体のものとし共通理解のうえ、資料提供ができた。	○			・1・2年次のうちから進路選択への意識を高めていくことで学習意欲向上へ繋げる。 ・進学・就職に関わる資料の提供を効率的に行う。
	・就職指導の充実	・事業所に対して通信制への理解の働きかけができたか。	・企業見学の依頼をはじめ、通信制の生徒を理解していただく機会を多くし、その成果として5名の就職が内定した。	○			・ハローワークや企業との連携を一層深め、通信制の生徒を理解していただけるよう努力していく。
動	・地区活動の充実	・魅力ある活動ができ、参加者が増加したか。	・活動が一部生徒に偏り、全体の動きとなりにくかった。		○		・活動内容を刷新し、大勢が積極的に参加できるよう活性化を図る。
	・生徒会行事への積極的な参加	・運動会、文化祭、交流会での参加者が増加したか。	・運動会・文化祭の出席者は昨年並。西高との交流会の参加者は多くなかったが、意欲的に取り組んでいた。		○		・活動の中核となる執行部を育て、諸行事の内容充実や情報伝達方法の工夫改善により生徒会全体の活性化に繋げる。
学	・定時制との連携に向けた研究 ・長野西との連携	・午前部・午後部・夜間部との連携について課題が明確になったか ・共通の課題を見出すことができたか	・多部制の初年度であることから併修希望はなかったが、施設利用等では各部と連携して諸行事の運営ができた。 ・全通研長野大会開催と長野西の2期制による10月入学生募集のために情報交換をしている。		○		・定時制各部の学習展開が安定したので、定通併修を進めたい。 ・来年度6月の全通研長野大会が成功するよう両校が協力して準備を開始し、10月生徒募集も、2校で実現できるよう連携を強めていく。
	組織運営 地域連携	・係活動の活性化 ・職員連絡会や職員会の活性化 ・本校通信制の理解を促す広報活動	・課題に対する提案や周知徹底ができたか。 ・生徒指導や学習指導に役立つ情報交換ができたか。 ・HPや通信誌を通して十分な情報発信ができたか。 ・生徒募集に係り全中学や高校に適切な資料配布や説明ができたか。	○			・必要な検討課題が生ずる度に連絡会や職員会を開き、課題について共通理解を深めながら進める。 ・保健室や生徒相談室、カウンセラーとの連携を強めてより良い指導に心がける。 ・日頃からHPや通信紙「筑摩」等で本校の学習活動を紹介しながら、7月・12月の体験入学・2月の学校説明会・各地区説明会の機会を有効に活用し、通信制教育が正しく理解されるよう適切なPRに努める。